

自立活動学習指導案
[難聴特別支援学級における指導]

広島市立〇〇小学校
教諭 〇〇

1. 日時 令和5年〇月〇日()
2. 場所 〇〇小学校 ことばときこえの教室
3. 児童 第〇学年 A 児(個別指導:11単位時間、小集団指導:2単位時間、グループ指導:1単位時間)
4. 児童の実態(個人情報保護のため省略)

5. 児童の実態のまとめと指導方針(個人情報保護のため省略)

本学級での指導のねらいは、きこえや言葉に課題のある児童を正しく理解することを基盤として、的確な実態把握のもと、児童の課題に応じた指導・支援を行い、全体的に調和のとれた発達を促し、学校生活や社会生活への適応を図ることである。そこで、指導にあたっては、本児を取り巻ききこえや言葉などの環境を整えながら、本児の得意なこと、強みを生かした指導の工夫を行い、聞くことや話すこと等への自信を育てていきたい。

<指導方針>

- (1) 聴覚管理をし、聴覚活用を促す。
- (2) 発話明瞭度を高める。
- (3) 言語力の向上を図る。
- (4) コミュニケーション能力の向上を図る。
- (5) 保護者との連携を図る。
- (6) 交流学級の担任との連携を図る。

6. 指導計画(前期)

指導目標	内容
(1) 聴覚管理をし、聴覚活用を促す。	・聴力検査を定期的に行い、聴力の管理を行う。 ・毎朝、ロジャー受信機とロジャーマイクとを同期し、音声が入っているか確認を確実にできるようにする。 ・補聴器やロジャーマイクの不調がある時に、周りの大人に伝え、自分で対処できるようにする。 ・聞き取れない時に、周りの大人や友達に聞き返すことができるようにする。 ・話者に注目して、話を最後まで聞くことができるようにする。
(2) 発話明瞭度を上げる。	・声の大きさや速さに気をつけて、相手に伝わるように話したり読んだりすることができるようにする。
(3) 言語力の向上を図る。	・漢字の読み書きや促音の書きの定着を図る。 ・身の回りの言葉(名詞、動詞、様子を表す言葉、気持ちを表す言葉等)や学習語彙の拡充を図る。 ・経験したことや思ったことを、5Wに沿って文章で書いたり話したりすることができるようにする。 ・自分の考えや思いを相手に言葉で伝えられるようにする。 ・国語科の学習において、物語文や説明文を読み、大まかなあらすじや段落ごとの要旨、登場人物の気持ち等を読み取ることができるようにする。 ・算数科の学習において、学習内容のキーワードとなる言葉や文章題の内容を正しく理解し、立式や測定、計算等ができるようにする。また、数の概念を正しく理解できるようにする。
(4) コミュニケーション能力の向上を図る。	・グループ指導を通して、自分の考えや思いを相手に伝わるように話したり、相手の話を聞いたりすることを通して、やりとりがスムーズにできるようにする。 ・思い通りにならない時に、自分の気持ちや思い、体調等を周りの大人や友達に伝えることができるようにする。

(5) 保護者との連携を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳を使い、日々の学習の様子や児童の学校や家庭での様子について情報交換を行う。 ・電話連絡や定期的に懇談の時間を設け、課題の共有化を図る。 ・保護者会を実施する。 ・教室行事や育成会行事への参加を勧める。
(6) 交流学級の担任との連携を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・交流学級や本学級での児童の様子について、日々情報交換を行う。 ・実態把握のアンケートを実施し、交流学級での実態を把握する。 ・担任者会の開催を通して、補聴器や難聴児のきこえの理解、支援等の情報交換を行う。 ・交流学級の授業参観を行い、実態把握に努める。

7. 本時の目標

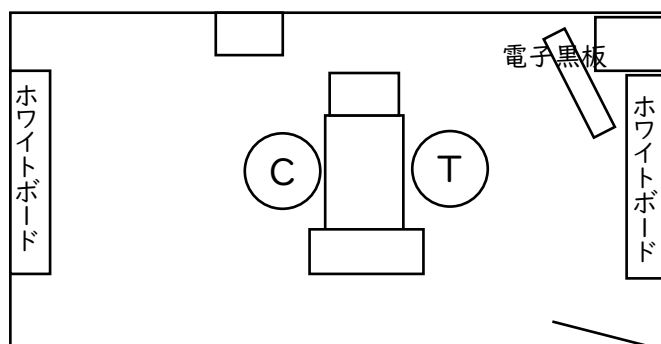
- ①相手を見て、話したり聞いたりすることができる。[自立活動6-(1)]
- ②自分の考えや思いを、相手に伝わるように話したり書いたりすることができる。[自立活動6-(3)]
- ③国語科「スイミー」の2場面を読んで、起こった出来事、様子について理解することができる。(国語科)
- ④スイミーの気持ちを考えて、話したり書いたりすることができる。(国語科)

<主に本児の指導において重点を置いている自立活動の内容及び本児につけさせたい力>

区分	項目	つけさせたい力
1. 健康の保持	(4) 障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の聞こえの状況を知る。 ・補聴器の管理ができる。 ・補聴器の不調や不具合に気づき、対処できる。 ・聞こえにくい時に他者に尋ねたり、聞こえやすい場所に移動したりする。
3. 人間関係の形成	(2) 他者の意図や感情の理解に関する事	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の意図や気持ちを理解する。 ・周囲の状況を把握し、場面や相手に応じて適切な行動を取ることができるようにする。
4. 環境の把握	(1) 保有する感覚の活用に関する事 (2) 感覚や認知の特性についての理解や対応に関する事 (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事	<ul style="list-style-type: none"> ・ロジャーマイクを活用する。(受け渡し、使用の依頼等) ・注意集中を持続させることができる。 ・出来事の経緯や周囲の状況、人の気持ちを把握し、場に応じた行動をとることができる。
6. コミュニケーション	(1) コミュニケーションの基礎的能力に関する事 (2) 言語の受容と表出に関する事 (3) 言語の形成と活用に関する事 (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関する事	<ul style="list-style-type: none"> ・話者を見て最後まで話を聞く。 ・言葉の習得や理解を深め、相手に適切に伝えることができる。 ・経験したことや自分の気持ちを言語化する。 ・他者との円滑なやりとりができる。

8. 学習過程(次ページ)

9. 教室内の配置図



8. 学習過程

学習活動	目標	○支援 ☆評価	準備物
<p>1. はじめのあいさつをする。</p> <p>2. 学習内容の確認をする。 ・日記 ・国語「スイミー」</p> <p>3. 日記の学習をする。 ・日記を音読する。 ・内容について詳しく話す。 ・担当者からの質問に答える。 ・語句や表現に誤りがあれば書き直す。</p> <p>4. 国語科「スイミー」の学習をする。 ・前時の復習をする。 ・教科書を音読する。(P66～P67) ・動作化をする。 ・学習プリントをする。</p> <p>5. 終わりのあいさつをする。</p>	<p>①</p> <p>①</p> <p>②</p> <p>②</p> <p>③</p> <p>④</p> <p>①</p>	<p>○担当者の方を見ていることを確認して、あいさつの合図を出す。 ☆担当者を見てあいさつをすることができたか。</p> <p>○指示を出したり話したりする際には、本児が担当者に注目しているかを確認してから話すようにする。 ○相手に伝わる声の大きさや速さ、読み誤りに気付くことができるよう、本児が読んでいる箇所を担当者が復唱し、紙に書きながら聞くようにする。 ○日記について話す際には、本児が話した内容やキーワードを書き取りながら聞くようにする。担当者が質問する際もキーワードを紙に書くようにする。 ○担当者の質問を最後まで聞かずに話し始めた時には、最後まで聞くように促す。 ○語句や表現の誤りがある場合は、正しい表現を書き示すようにする。 ☆担当者を見て、話したり質問に答えたりすることができたか。 ☆経験したことや自分の気持ちを相手に伝えるように話すことができたか。</p> <p>○音読する際は、声の大きさや速さに意識を向けて読むことができるよう、担当者と句点で交代して読む。 ○分からない言葉があった場合は、タブレット端末で意味を調べたり画像を検索したりして確認する。また、意味調べプリントに記入をする。 ○まぐろの恐ろしさとスイミーの気持ちに気づくことができるよう、まぐろの絵を用意し比較する。また、「すごいはやさ」、「ミサイルみたい」の言葉を確認しながら、まぐろとスイミー役に分かれて動作化をする。 ○一匹だけ逃げたスイミーの気持ちが考える際には、「スイミーだけ」、「くらい海」の言葉を押さえたり、「一人ぼっち」の時の気持ちを想像するよう言葉をかけたりする。また、学習プリントに書く時の助けになるよう、本児が話した内容をメモに取りながら聞くようにする。 ○学習プリントをする際に、本児に疲れた様子が見られた場合は、自分の体調を言葉で伝えるよう促す。また、自分で書くことが難しい場合は、本児が話したことを担当者が書くようにする。 ☆2場面で起こった出来事や様子について理解することができたか。 ☆スイミーの気持ちを考えて、話したり書いたりすることができたか。</p> <p>○担当者の方を見ていることを確認して、あいさつの合図を出す。 ☆担当者を見てあいさつをすることができたか。</p>	<p>・学習予定表</p> <p>・日記帳</p> <p>・前時の学習プリント ・意味調べプリント ・海の画用紙 ・スイミー、赤い魚、まぐろの絵 ・タブレット端末 ・学習プリント</p>